

いわみの

(益高だより)

令和3年3月号②

(第149号)

令和3年3月24日

鳥根県立益田高等学校

「益田高校をさらに魅力ある学校に」

校長 柿本 章

今年度「益田高校魅力化部会」が立ち上がり、「益田高校を今よりさらに魅力ある学校にするにはどうすればいいか」、地域の様々な立場の方に参加してもらい本校の教職員とともに話し合う機会を3回もちました。先日の第3回では、魅力ある学校について生徒自身がどう感じているのかを知る目的で、卒業生の1人に「今後の益田高校に期待すること」をテーマにプレゼンしてもらいました。

様々な視点から話してくれましたが、その中で「益高生に求めるもの」として「受け身の姿勢の打破」を挙げてくれました。具体的には「もっと自分の考えていることを積極的に発信すること」「自主的・意欲的に学習に取り組む姿勢」などでしたが、同時にそれは生徒だけでなく教員の関わり方にも工夫が必要ではないか、という教員に対しての問題提起でもありました。例えば、家庭での学習習慣を定着させたり高校での学習の仕方を理解させたりするために一年生の時には多くの課題が出されるが、その理由を生徒がしっかりと理解しているのか、理解させるためにその目的をきちんと伝えた方がいいのではないかということ。授業では一方的に先生がしゃべるのではなく、生徒とキャッチボールしながら進めてもらいたいということなどでした。3年間の益田高校での学びを振り返ってのプレゼンの内容は、参加者に多くの気づきを与えるもので、全ての教職員と生徒で聞くとよかったですと感じたところでした。

今年度はこの「益田高校魅力化部会」のように、生徒の皆さんの学びがより豊かにより充実したものになるように、多くの方々に協力してもらうことができました。SSHプログラムである1年生の地域巡検、2年生の課題探究・課題研究等、約30の企業や団体に参加してもらった「いわみ未来発見セミナー」、益田版カタリ場、様々な分野の進路ガイダンス、幼稚園交流ボランティア等、人数にすれば数百人に上るのではないのでしょうか。

「主体的に物事に取り組み、様々な他者とのつながりを通して自らを高め、未来を切り拓くことのできる生徒を育てる。」改めて本校の教育目標です。今後も益田高校に様々な形で協力していただける方と積極的に対話し、生徒の皆さんが自分の課題を解決したり興味・関心を再認識したりしながら主体的に学んでいくことを期待します。そのような生徒が一人でも増えていくことこそが益田高校がさらに魅力ある学校になることだと思います。

「考える習慣」

教務部長 安達 宗男

数年前に京都のある高校に視察に行き、課題研究の様子を見せてもらったことがあります。発

表会などではない普段の授業でしたが、参考文献を読み、友達と活発に意見を交わしている様子が非常に印象的でした。その高校は全国でも屈指の進学校ですが、その秘密の一端を垣間見たような気がしました。現在の益高生は探究活動に熱心に取り組んでおり、その過程で「なぜ？」と考える習慣がついてきているように感じています。その姿勢は必ず教科の学びにも生きてきます。課題から目を背けず、しっかりと自分の頭で考えることができる人になってください。

「マネジメント力」

生徒部長 中村 展久

新型コロナウイルス感染症を受けて、2020年度は「ステイホーム」という言葉が流行しました。本校でも、4月20日から約1か月休校になり、これまでに経験したことのないような、家庭での生活が長く続きました。チャイムの鳴らない生活の中で、一日の生活をどのように過ごしていくのか、時間の使い方や計画を立て実行するマネジメント力が試される期間でもありました。

普段の学校生活では、日々の授業を受け放課後は部活動、家に帰ると出された課題をやっていく…受け身で流されていくことの方が多いのではないのでしょうか。しかし、決まったスケジュールの中においても、自分で目的を設定し時間を意識して取り組むことで、時間の使い方が変わり、効率化や時間の短縮ができるのではないのでしょうか。また、やらされ感で勉強や部活を行うのではなく、自分で時間をマネジメントして取り組んだことは、結果に対する満足感や成長感は異なってくるのではないのでしょうか。

春休みも自分で時間をマネジメントして生活することを心掛け、新しい学年で良いスタートを切る準備にしてください。

「その先にあるのは」

進路指導部長 佐藤 洋平

今年の受験生は、3年間振り回されてきました。大学入学共通テストの導入とその形式の度なる変更、英語の民間試験の導入延期、Japan e-portfolioの運用認可取り消し、そしてコロナによる休校と制約の多い学校生活など、本当に可哀想という言葉では言い表せないくらい大変だったと思います。その中でも、今年の益高の受験生は、自分の目標に向かって、直向きに絶え間ない努力を重ね、多くの人が志望校合格の栄冠を勝ち取りました。在校生の皆さんは、16日の受験体験報告会で先輩の誇らしい姿を見たことでしょうか。これだけ振り回された受験環境でしたが、大変だったからこそ、それを乗り越えた先にあるものは、かなり大きいものだと思います。受験を乗り越えたことによって、変化多い時代に対応し、答のない問題に立ち向かえる逞しさを身に付けたと思います。在校生の皆さんは先輩の背中を追いかけ、自分の進路実現に向けて動き出しましょう。

島根県高等学校理数科課題研究発表会

島根県高等学校理数科課題研究発表会にて『益田地域のマイクロプラスチック』が最優秀賞、『イシドジョウの生息する石の条件』が優良賞を獲得しました。最優秀賞を獲得した『益田地域のマイクロプラスチック』は8月に福岡県にて開催される中四国・九州地区理数科課題研究発表会への出場権を獲得しました。



合唱部壮行式

福島県で開催される第14回ヴォーカルアンサンブルコンテスト全国大会に出場する合唱部の壮行式を行いました。生徒と距離を取った上で大会で演奏する曲を披露しました。合唱部の代表からは「全国大会という大きな舞台で悔いのないよう精一杯頑張ります！」と意気込みが語られました。



退職される方

初めて事務室に勤務することになった日はとても緊張したこと、そしてとても静かな学校だ

大羽 恭子 事務長

と（それは今もそうですが）感じたことを覚えて
います。

さて、歴史のある校舎には不便さを感じられ
ることも多かったと思いますが、事務室から見
える校舎と景色は忘れられない思い出となりま
した。皆さんにとって忘れられない景色とはど
んな景色でしょうか。短い間でしたが大へんお
世話になりありがとうございました。

大門 剛治 企画幹

3年間お世話になりました。益田高校で教育

転任される方

柿本 章 校長

授業やSSH事業、部活動など、生徒の皆さ
んが活き活きと学んでいる姿を見るのが楽しみ
でした。この3年間でそういう場面はどんど
増えてきました。それは先生方をはじめ地域や
保護者の方など多くの方々が益高生の成長を心
から願ってくださっているからです。こういう
学校で勤務させていただき本当に幸せでした。

忌部 秀哉 先生（国語）

諫言を一つ贈らせて下さい。みなさんが本
当に今の自分と向き合っているか？というこ
とです。益田高校には各中学校から比較的成
績の良い児童が集まりました。ということは、
その成績の良い集団の中で頑張らなければ
ならないということです。中学校時代のような
わけにはいかないということです。今の自分
と真正面から向き合えば、何をしなければ
ならないかは自ずから見えてくるはず
です。

活動のお手伝いをさせていただくことが
でき感謝しています。よく挨拶される気持
ちのよい学校でした。生徒・卒業生の皆
様のご活躍と益田高校の発展をお祈り申
し上げます。ありがとうございました。

榊野 浩一 主任

素直な生徒に巡り会い校風の新鮮さを
感じた8年前を思い出します。県立高
校を4校、また特別支援学校を経験さ
せていただき3月31日をもって賞味
期限切れとなる私ですが人生の区
切りを益田高校で終えることを大変
嬉しく思います。8年間お世話にな
りました。ありがとうございました。

先生（国語）

した8年間でみなさんと交わした
言葉のひとつひとつが、大切な記憶
です。これから、お互いに力を持ち
寄って、ともに社会を、そして文化
を支え、つくりだしていきましょう。
益高、益田を心から愛しています。
本当にありがとうございました。

長谷川 哲明 先生（数学）

母校である益高に赴任し、気がつけば
9年もの月日が経っていました。授
業や部活動、SSH活動などで生徒の
皆さんと多くの時間を共有できた
ことが何よりの思い出です。益高
生の皆さん、益高生活は忙しいと
は思いますが、こんなに濃い活動
ができる学校はそうありません。
これからも勉強に部活動・SSH活
動などのあらゆる益高での活動
をしっかりと頑張ってください。
皆さんの活躍を期待しています。
9年間本当にありがとうございました。

俵 真二郎 先生（理科：生物）

母校に戻り7年間、お世話にな
りました。久しぶりに体育館で校
歌を歌い、懐かしい教室で授
業できたことを、何よりありがた
く思いま

す。授業以外でも、SSHの様々な活動を通じて、楽しく過ごせる場所を与えてくださった、生徒の皆さん、先生方、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

柳楽 明久 先生 (理科：化学)

3年間でしたが、将棋部や化学の授業、さいえんすたうんなどSSHの活動や、色々な場面で皆さんと良い時間を過ごさせてもらえました。今後は外から皆さんの活躍を応援しています。ありがとうございました。

深野 悠子 先生 (理科：実習助手)

益高では、教科は家庭科と理科、部活もいろいろ経験させていただきました。社会人になってからの方がより新しいことの連続で、しかもそれを興味深く楽しめると知った6年でした。もちろん楽しめたのは益高生のみなさんの力があってこそです。ありがとうございました。

渡邊 渉 先生 (理科：化学)

カラッと晴れ渡る益田の空のようなみなさんの声に励まされ、4年の月日を過ごすことができました。みなさんの前向きさと直向きさは、何よりも宝物だと思います。次の春にはきっと、益田高校に（マスクを外した）笑顔が溢れますように。ありがとうございました。

林 信悟 先生 (保健体育)

5年間の勤務でした。皆様方の支えでなんとか今日を迎えています。何もお役に立てず申し訳ありません。今日もまた一歩一歩着実に平凡な日々を積み重ねていきます。本当にありがとうございました。

安達 宗男 先生 (英語)

8年間という長い間、母校で勤務することができて幸せでした。実感としては「もう8年？」というくらい早く過ぎ去った感がありますが、それはみなさんのお陰で充実した時間を過ごすことができたからです。本当に感謝しています。今後は、一人の益高OB・益田市民として、みなさんの活躍を見守っていきたくと思っています。

景山 織江 先生 (英語)

短い間でしたがお世話になりました。例年通りにいかないこともたくさんありましたが、皆さんの笑顔や明るさに助けられました。遠くからではありますが、益高生の活躍をこれからも応援しています。ありがとうございました。

水上 恭司 先生 (英語)

さよならクイズです。□□に入る語句を下から選んでみましょう。

「実力の差は□□の差」 「実績の差は□□の差」
「人格の差は□□の差」 「判断力の差は□□の差」
「真剣だと□□が出る」 「中途半端だと□□が出る」
「いい加減だと□□ばかり」

【 言訳・苦勞・愚痴・情報・責任・
知恵・努力 】

自戒の言葉です。お互い、4月から密かに気合を入れていきましょう。

益田高校ホームページ www.masuda.ed.jp/

益田高校フェイスブック <https://www.facebook.com/masuda.hs/>

益田高校魅力化
チームフェイスブック
益高公認のフェイスブックページ
始めました！

